

財団法人 漁船海難遺児育英会編

# 母さんの光る汗

— 漁船海難遺児と母の文集 —

海 文 堂

さんの  
光る汗

— 漁船海難遺児と母の文集 —

0909

ISBN4-303-46157-1 C3095 ¥700E

母さんの光る汗—漁船海難遺児と母の文集— 定価700円

昭和55年10月29日 初版発行 ©1980 ZAIJAN HOZIN  
KAINANIZI IKUEIKAI

編者 財団法人 漁船海難遺児育英会

発行者 岡田吉弘

発行所 海文堂出版株式会社

本社 東京都文京区水道2丁目5番4号(〒112)

電話 03(815)3292

支社 神戸市生田区元町通3丁目146(〒650)

電話 078(331)2664

検印省略

日本書籍出版協会会員・自然科学書協会会員・工学書協会会員

PRINTED IN JAPAN

印刷・新興印刷／製本・小野寺製本

本書の内容の一部あるいは全部を無断で複写複製(コピー)することは、法律で認められた場合を除き、著作者および出版社の権利の侵害となりますので、その場合にはあらかじめ小社あて許諾を求めて下さい。

## まえがき

漁船海難遺児——聞き馴れない人も多いかと思います。しかし、現在全国には約三千人もの遺児たちがいます。

海は、日本人の食生活に欠かすことのできない大切な魚貝類を恵んでくれます。この恵みを国民の食膳に供給するのが漁業です。漁業従事者は、ひとたび海へ出ると、昼夜の別なく操業を続け、生産に励んでおられます。

この海は、私たち人類に大きな幸を与えてくれる母なる海ではありますが、時として、人間の力では抗しきれない大自然の猛威をふるうこともあり、また、海の危険は自然の力だけではありません。船の座礁、衝突あるいは船火事、さらには作業中に海中へ転落し死亡、行方不明となる痛ましい災害もあります。また、急病人が発生しても、陸上のようにすぐ救急車を呼び、病院へ運んでもらうことはできません。

科学が進歩し、海難防止のさまざまな対策が考えられているにもかかわらず、残念なことに、毎年多数の尊い人命が海に奪われています。その事故の結果は、遺された者たちの生活の辛さ、苦しさを、言葉ではいい表わせないものにしてしまいます。

私ども、財団法人漁船海難遺児育英会は、海で犠牲となられた仲間が遺された遺児たちに、少しでも役立つようにと、十年前に漁業関係者の手で設立され、各界からの暖かい励ましにより支えられております。現在の事業は、幼稚園（保育所含む、四歳、五歳児）、小学校、中学校、高校に在園、在学している遺児を対象に、学費の給与、奨学金の貸与等の事業を行っております。

この文集は、育英会設立十周年記念事業の一環として企画し、遺児奨学生、卒業生並びにお母さんから応募された作文でできた貴重な文集です。ここに寄せられた作文を読み、父を知らない子供が多いことに驚き、そして、犠牲となられた殉職者の方々が、若く働き盛りの一家の大黒柱であること、さらに、若い遺児のお母さんたちの御苦労の多いことを知り、胸の痛みを抑えることができない思いです。この文集の中の遺族の心が、一人でも多くの人の心に触れ、日本の漁業を、海難事故を、もう一度考え直していただければ幸いです。

最後に、これまで育英事業に賜りました数々の暖かい御支援に厚くお礼申し上げますとともに、なお今後の御支援、御協力をお願い申し上げます。

昭和五十五年十月二十九日

財団法人漁船海難遺児育英会

理事長 鈴木善幸

## 目 次

ぼくお父ちゃんと似てるかな

<p>ぼくお父ちゃんと似てるかな          おとうさん もう一かいあいたい          お父さん          うごくお父さんがほしい          写真のお父さんのお話          父の日に書いた母の顔          父にしかられてみたい          お父さんにだかれている写真          うさぎのピョンコ          四つの瞳の成長          父の顔          お父さんはきちょうめんだった          父の面影          花は買えなくても          父の命日に思うこと</p>	<p>森田 昭雄 3          平戸 里美 5          林 由貴子 6          渡辺 陽子 8          山下 紀子 10          後藤 幸恵 12          皆川 勉 14          宮内 悦子 16          畑 みどり 18          長谷川 貞子 20          鈴木 賢二 23          大久保 チヨ子 25          小堂 由香理 27          小笠原 享子 29          江本 祥子 31</p>
--	---

父ちゃんのいないおまつり

父ちゃんのいないおまつり

大田 勝美 35

お酒の好きだったおとうさん

石川 佐和子 38

ゆめの中のお父さん

平戸 ルミ 40

やさしかったお父さん

村形 恵 43

遺言

木下 紀二 46

お父さんを思って

高橋 あゆみ 48

私の家族

高橋 文子 49

お父ちゃんのいないのが不思議なとき

川崎 好一 51

心の奥に生きる父

阿部 初枝 53

こわい父だったけれど

新井田 美由喜 55

遺体のなかった父の死

昆 和子 58

永久の旅にでかけて行った父

渡辺 昭子 60

そっと去った父

植村 留美 63

三年目の父の遺骨

山下 由利江 65

封のあけられなかった母の手紙

村上 智美 68

海はきらいだ

父さんにすがりたくなるとき

算数のえらかったお父ちゃん

お父さん 話がしたい

負けるもんか

もうとんでこない父のビンタ

—— お母さん もっともっと幸せになろうよ

お母さん もっともっと幸せになろうよ

お母さんの気もちがわかる年になったよ

母の苦勞

母さんの光る汗

いつも、しんばいばかりのお母さん

母親への感謝

お父さんにはもうやさしくできないから

母の手

希望

黒沢福恵 71

谷口裕枝 73

北山かおり 76

村田玉世 78

永田光広 81

横田道代 83

佐藤恵美 89

原あけみ 93

松田和美 96

大村いつみ 99

田中正也 101

森口知佐子 103

植村恵美 106

寺本千代美 109

池田知子 112



辛かった過去

南 美代子

114

亡き夫に思う

松本 政美

116

十三年間待った母のしあわせ

原 高子

118

小さくなった母

中村 比路江

122

ほくの手で母の幸せを

原 章人

125

私の近況

新藤 美津子

128

世間の荒波をうけて

作山 弘子

130

海がある限り

中尾 昌子

133

いつまでも大きい母でいてほしい

山本 清香

136

母さんありがとう

青木 美代子

138

お母さんの苦勞

末武 悦子

140

母は何もいわないけれど

深渡 文子

142

わたしのしあわせ

正井 喜栄子

145

—— お父さん もうそろそろ帰ってこいよ

お父さん もうそろそろ帰ってこいよ

林 正之

151

父のいる海がぼくは好きだ

松風 紀之

153

お父ちゃん 短かいつきあいたったね

お父さんがいなくても夢がある

がんばります お父さん

子らと共に明日にむかって

父のような海の男になりたい

ぼくの夢

将来の希望

夫逝きて十年

十六才——ぼくの課題——

海難事故を防ぐために

飛島の青い空から父ちゃん見ていて

苦しみを乗り越えて

苦しみを乗り越えて

七回忌を迎えて

一生懸命、そして強く生きよう

母を目標に

北山 俊英

河崎 直美

森田 恵司

渡辺 大勝子

皆川 登

潮崎 貴秀

朝熊 由佳

池田 幸子

藤田 修

黒島 成洋

讃岐 ゆかり

渡辺 則子

片山 裕枝美

石渡 優子

中川 さつみ

生きていてよかった

母の強さ

ふりかえってみて十五年

うでが太くてやさしいお母さん

明日に生きる

あれから十一年

まっ黒で太っているハリキリかあちゃん

母さん しらががはえてきたね

今、私のすべきこと

強く明るい母の働く姿

父のいない生活

感謝の気持ち

遺児というハンディを乗り越えて

漁業の仕事に就いて

我が子への手紙

木下 きぬ子

柴原 美香子

直井 龍子

古屋 清美

福島 冷子

村塚 美加子

森田 智子

中川 志保

松風 いづみ

阿部 嘉良子

荒谷 顕治

小久保 早苗

中村 弥生

盛合 敏明

浜田 静恵

遺児と母の名簿

カバー絵／本文カット・安保健二

250 246 243 240 238 236 233 230 228 225 223 220 217 213 210 207

母親の胎内にいる時に——  
生まれて間もないうちに——  
潮の匂いのする父の腕に抱かれ  
ることのなかった子らに、父の  
思い出は何もない——。

ほくお父ちゃんに似てるかな



ぼく お父ちゃんと似てるかな

兵庫県浜坂町浜坂小学校四年 森田 昭雄

ぼくのお父ちゃんは、船の機関士でした。だけどぼくがうまれる前に事故で死にました。

お兄ちゃんはお父ちゃんにそっくりだとみんなが言います。しゃんしかお父ちゃんを知らないけれど、ぼくはどっこもお父ちゃんにでないのかな。病院で血の検査をしたらO型でした。お父ちゃんといっしょでうれしかったです。

ぼくとお兄ちゃんは、魚釣りが大好きです。お兄ちゃんはとっとうまいです。ぼくもだいぶん上手に釣れるようになりました。でもお父ちゃんが生きていたら、船に乗せて釣りにつれていってくれるだろうに。本当にさんねんで

す。

船に乗るのは大好きだけど、ぼくは汽車の方がもっと大好きなので、大きくなったら汽車の運転手になりたいです。だけどお父ちゃんがいたら、いっしょに船に乗って船長さんになりたかったです。

お父ちゃんがいなくても、お母ちゃんやおねえちゃんやお兄ちゃんがいるのでさびしくありません。友だちもたくさんいるので、とっても楽しいです。

おとうさん　もう一かいあいたい

長崎県伊王島町伊王島小学校一年　平　戸　里　美

わたしのおとうさんは、わたしが四さいのときに、とおい、ひがししなかい  
というところで、あらしにあってしまいました。

わたしには、おにいちゃんと、いもうとがいます。おかあさんからおとうさ  
んのことをきいて、みんなでよくはなします。

おともだちにはみんなおとうさんがいて、いいなあとおもいます。でもおか  
あさんがいるのでがまんします。

やさしかったおとうさんにもう一かいあいたいです。



お父さん

岐阜市茜部小学校五年 林

由貴子

お父さん

今 何してるんですか

もう 十年たちましたね

わたしも 十才になりましたよ

お父さん

一度は 見たかった

声も 聞きたかった

遊んでもらいたかった